

ヒョウ

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

ヒョウはアフリカの森林や草原、岩丘などに単独で暮らす孤独な狩人です。

同じネコ科でも、ライオンは複数の家族や兄弟が集まって“プライド”と呼ばれる集団を作って暮らしていますが、ヒョウは繁殖期にだけ雄と雌と一緒に行動し、あとは全く別行動です。子育ては雌の担当で、稀に母と幼い子が連れだって歩いたり、樹上で休息する姿を見かけることがあります、それはあくまでも育児中だけの話です。

ヒョウは群れを作らないせいもあり、アフリカでよく知られるヒョウの生息地でも、なかなか出会うことができない動物のひとつです。

ある動物学者の研究によりますと、百分の三の確率。つまり 100 回探してわずか 3 回しかヒョウを見ることはできない、といわれています。

ところが今春 2 月 29 日、ケニアのナクル湖畔をサファリドライブした時には、案内してくれたケニア人のベテランドライバーも「信じられない……」と舌を巻く出来事が起きたのです。

午後の 4 時間ほどのドライブの間に、何んと 5 回、計 6 頭ものヒョウと出会うことがで



写真 1 珍しく昼間に姿を見せたヒョウ

きたのです。ヒョウはいずれも樹上で休んでおり、気持ち良さそうに、ダラリと長い尾と足を下げていました。

ヒョウの美しい斑点模様が木の葉越しにチラチラと見え、上手にカモフラージュをしているものだと、自然の造形の美しさに改めて感心した次第です。

特に 4 回目に出会ったヒョウは母子連れで、高いアカシアの木の枝に 2 頭が並んでおり、子どものあどけない表情が、何んともいえない可愛さでした。

翌日、ケニアのマサイマラでは、川沿いの

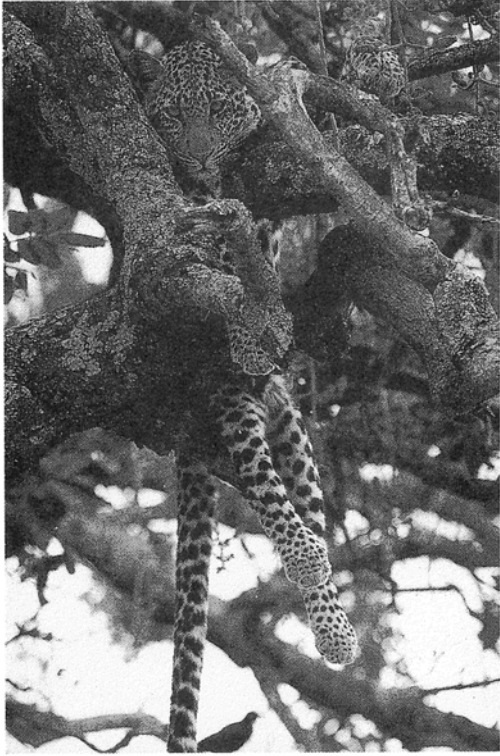


写真2 樹上で得意のポーズをとるヒョウ

木立ちの中の1本の木に、体重50kgはありそうなインパラがぶら下がっているのを発見しました。これは紛れもなくヒョウの仕事です。

ヒョウはライオンやハイエナ、ハゲワシなどに獲物を食べられないように、樹上に運び上げておくのです。そのインパラも内臓は、すでに食べ尽くされたあとで空っぽになっており、ダラリと下がった頭が、狩りのすさまじさを物語っていました。

双眼鏡でその木の周辺を見回してみたところ、数10m離れた草原に、満足そうな表情の大きなヒョウがゴロリと横になって休んでいました。ひとしきり獲物の肉をむさぼり、空腹を満たしたヒョウは、残りのごちそうをあついでゆっくり平らげるのでしょう。

それにしてもヒョウの瞳に見つめられると、吸い込まれてしまいそうな錯覚に陥ります。

〈ヒョウひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国(ケニア、タンザニア、ウガンダなど)で話されている公用語のスワヒリ語で、ヒョウは「チュイ」と呼ばれている。

▶野生のヒョウの妊娠期間は、およそ

100日。出産は1産1~5子で、寿命は20年前後。

▶ヒョウの体重は雄が200kg前後、雌は150kg前後になる。

●「We ♥ Africa わが心のサバンナ」平岩父娘とその仲間の傑作動物写真集出版記念写真展開催(出品点数は合計1,700点)

4月21日(金)から5月11日(木)までの連日、東京・市ヶ谷の「フォトスペース光陽」(JR市ヶ谷駅下車2分、江上料理学院前)で、平岩父娘写真展が開催されます。29年間に撮影した30万カットの中から、最新作100余点を大型カラー写真パネルで展示。22日(土)午後12時30分からは駐日ケ

ニア、タンザニア両国大使を迎えて、オーブニングパーティーも。入場無料。平岩父娘とともに行くアフリカツアー参加者約60名の撮影による「私のアフリカ傑作ミニ写真展」も併催される。毎日午前10時から午後6時30分(ただし最終日は午後5時で終了)。スライド上映会(5月7日午後3時30分~)や、写真パネル人気投票、無料旅行相談などもある。会場道順の問合せは電話03-3316-6234番へ。ぜひご来場を!